内閣府本府政策体系に掲げる
令和8年度実施施策に係る
ロジックモデル・事前分析表

政策名	「科学技術・イノベーション政策」
施策名	「科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進」
担当部局・ 作成責任者名	科学技術・イノベーション推進事務局 原子力担当　　参事官　北郷　太郎 SIP/BRIDGE総括担当　企画官　岡﨑　健一
評価実施時期	令和12年度（4年目評価） 令和13年度（最終年度評価）

ロジックモデル

評価期間：令和8年度～令和12年度

解決すべき問題・課題

世界の主要国・地域では、地政学的競争の激化や地球規模課題の深刻化といった構造変化の中で、科学技術・イノベーションが、国家の安全保障、経済的優位性及び国民生活の質を左右するとの認識の下、科学技術と国益を強く結び付けており、特に重要技術における主導権をめぐる競争が一層激化している。
また、原子力エネルギー分野に加えて、工業や医療、農業等の分野への放射線利用は着実に進んでいる。一方、同時に核拡散のリスクにかかる懸念の高まりをもたらすこともある。
このような状況につき、科学技術・イノベーション政策や原子力政策に対し、社会や国民から高い関心が寄せられている。

施策の概要

経済・社会・科学の発展及び福祉の向上に向けて、科学技術・イノベーション政策及び原子力政策を推進する。

事業の概要（アクティビティ）	活動実績（アウトプット）	中目標（アウトカム）	施策目標（インパクト）
総合科学技術・イノベーション会議の有識者で構成されるガバニングボードが、国内の重要な課題を設定するとともに予算配分等をトップダウンで決定 ガバニングボードがSIPやBRIDGE全体の研究開発計画や出口戦略等を評価	課題解決に必要な技術開発等の推進 ①,②	技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の視点からの取組も進み、社会実装が加速 ❸ 重要技術領域に関連する社会課題を解決	豊かで安全・安心な社会や多様なwell-beingが実現できる社会に貢献
【インプット】 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）： 319.5億円/年 研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）： 100億円/年			
原子力委員会の開催 原子力に関する活動に係る情報収集・分析・発信等	原子力委員会の活動状況に関する情報の公開 ④	我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む ❺,❻	人類社会の福祉と国民生活の水準向上に寄与すること
【インプット】 1.3億円			

【測定指標（参考指標）】
①SIP 評価委員会での評価の結果
②BRIDGE評価委員会での評価の結果
❸追跡評価WGでの評価の結果
④原子力委員会の議事録または音声データの公表件数
❺原子力委員会Webサイトのアクセス件数
❻原子力関連学科・専攻の入学者数

事前分析表（概要）

評価期間：令和8年度～令和12年度

施策名	「科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進」
施策目標1	豊かで安全・安心な社会や多様なwell-beingが実現できる社会に貢献

中目標1	重要技術領域に関連する社会課題を解決 ・技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の視点からの取組も進み、社会実装が加速
現状・課題	我が国は、多岐にわたる社会課題を抱えており、様々な社会課題の解決に向け、重要領域の戦略的な研究開発の推進などによる先進技術の着実な社会実装が求められている。また、府省横断的に取り組むべき課題が多く存在。
令和8年度の取組	SIP及びBRIDGEにおいて実施中の各課題について評価を実施する。 SIPについては、SIP第2期の追跡評価を実施する予定。 BRIDGEについては、制度の充実を図ることを目的にBRDIGE制度中間評価を実施する。

課題設定・課題推進 ▶ 各課題の目標・計画の達成（最終年度実績） ▶ 成果の社会実装

事前分析表（概要）

評価期間：令和8年度～令和12年度

施策名	「科学技術・イノベーション基本計画の策定・推進」
施策目標2	人類社会の福祉と国民生活の水準向上に寄与すること

中目標2	我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む
現状・課題	我が国においては、原子力エネルギー分野に加えて、工業や医療、農業等の分野への放射線利用は着実に進んでいる。一方、同時に核拡散のリスクにかかる懸念の高まりをもたらしていることもあり、原子力政策に対し、国民から高い関心が寄せられている。
令和8年度の取組	有識者から意見聴取、現場調査等を行うことにより、原子力に関する最新の知見を入手し、原子力政策に関する事項について、企画し、審議し、決定。例えば、原子力利用に関する現状及び取組の全体像をまとめた原子力白書を発刊。 また、国際原子力機関（IAEA）総会やアジア原子力協力フォーラム（FNCA）等に、原子力委員会が参加するなどし、情報収集・意見交換・分析を実施。

原子力委員会Webサイトのアクセス件数
1,722,318件
（基準年度：R7年度）

→

原子力委員会Webサイトのアクセス件数
〇件
（R8年度実績値）

→

原子力委員会Webサイトのアクセス件数
〇件
（R12年度実績値）

中 目 標 1	重要技術領域に関連する社会課題を解決 ・技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の視点からの取組も進み、社会実装が加速
測定指標1 測定指標2	SIP 評価委員会での評価の結果 BRIDGE評価委員会での評価の結果

測定指標の選定理由

戦略的イノベーション創造プログラム運用指針（令和6年10月最終更新ガバニングボード決定）、研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム運用指針（令和7年12月最終更新ガバニングボード決定）において、年度ごとに目標等の達成度合いの評価を行うことが規定されているため。

			R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
基準値 （基準年度）	社会実装に向けた進捗 官民投資拡大に向けた進捗	年度ごとの実績値	【SIP参考値】 特許出願数 ●件 論文出版数 ●件	【SIP参考値】 特許出願数 ●件 論文出版数 ●件	【SIP参考値】 特許出願数 ●件 論文出版数 ●件	【SIP参考値】 特許出願数 ●件 論文出版数 ●件	【SIP参考値】 特許出願数 ●件 論文出版数 ●件

目標値の設定根拠・実績値の把握方法は次頁

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】社会実装には、製品化に加え、データベースの構築や公的インフラの整備など、多様な形態があることから、売上高や導入件数といった一律の定量的な目標値を設定することは困難であるが、把握可能な特許出願件数及び論文数については、参考指標として設定する。

【把握方法】運用指針に基づいて一定期間毎に実施するSIP評価委員会、BRDIGE評価委員会が評価を行う。

＜参考＞評価の考え方

SIP＜合計値による総合評価＞

得点率	点数	評価
90%以上	144点以上	S
80%～90%	128点以上144点未満	A+
60%～80%	96点以上128点未満	A
40%～60%	64点以上96点未満	A-
20%～40%	32点以上64点未満	B
20%未満	32点未満	C

BRDIGE（総合評価の基準）

S：成果が適切かつ的確に達成され、施策展開や普及に向けた具体的な計画が関係者間で共有され、すでに実行段階にある。

A：計画通りの成果が得られ、施策展開や普及に向けた具体的な計画が策定・共有されているが、一部に改善の余地がある、または社会状況への対応が十分でない。

B：成果は一定の水準で達成されている（または外的要因で一部未達の状況にある）ものの、施策展開や普及に向けた具体的な計画が未確定であり、社会実装や事業化のロードマップが不透明な段階にある。

C：成果の一部が未達、または計画通りに達成されたが適切性の検証が不足しており、施策展開に向けた具体的な計画は進んでいないか、最低限の検討にとどまっている。

D：成果が得られていない、または限定的であり、施策展開に向けた検討や準備も進められていない。

中 目 標 1	重要技術領域に関連する社会課題を解決 ・技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材の視点からの取組も進み、社会実装が加速
参考指標1	追跡評価WGでの評価の結果

参考指標の選定理由

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）評価に関する運用指針（令和6年10月最終更新ガバニングボード決定）において、終了後、一定の時間が経過した後、必要に応じて追跡評価を行うことが規定されているため。

研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム運用指針（令和7年12月最終更新ガバニングボード決定）において、事業終了後、一定期間後に実施する追跡評価において、成果の実用化・事業化の進捗の評価を行うことが規定されているため。

			R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
参考値 （参考年度）	成果の実用化・事業化	年度ごとの実績値					

参考指標（値・年度）の把握方法

【把握方法】運用指針に基づいて一定期間毎に実施する追跡評価WGで評価方針を決定し、当該方針に基づき把握。

中 目 標 2	我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む
測定指標2	原子力委員会Webサイトのアクセス件数

測定指標の選定理由

我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解増進を図るための主要なツールとなっているWebサイトへのアクセス件数を普及啓発の推進の指標として設定。

			R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
目標値 （目標年度）	前年度以上 （R7年度）	年度ごとの 目標値	1,722,318 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上
基準値 （基準年度）	1,722,318 （R7年度）	年度ごとの 実績値					

目標標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

【設定根拠】原子力委員会Webサイトのアクセス数について、前年度との増減を比較することにより、原子力利用に関する理解や注目度の変動を一定程度測ることが出来るため、理解増進を目指し、前年度以上のアクセス数を目標と設定。
【把握方法】原子力委員会Webサイトのアクセス数を集計。

中 目 標 ２	我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む
参考指標2	原子力委員会の議事録または音声データの公表件数

参考指標の選定理由

原子力委員会の活動状況について、Webサイト上で広く情報発信する取組を示すものとして、参考指標に設定。

			R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
参考値 （参考年度）	48 （R7年度）	年度ごとの 実績値					

参考指標（値・年度）の実績値の把握方法

原子力委員会Webサイト上に議事録または音声データを公表した件数を集計。

中 目 標 ２	我が国の原子力利用に関する取組について、国内及び国際社会における理解が進む
参考指標2	原子力関連学科・専攻の入学者数

参考指標の選定理由

原子力分野に対する国内及び国際社会への理解状況を示すものとして、参考指標に設定。

			R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
参考値 （参考年度）	901 （R7年度）	年度ごとの 実績値					

参考指標（値・年度）の実績値の把握方法

原子力関連の学科や専攻の入学者を公表した人数を集計。

参考情報

（1）参考となる情報

- 戦略的イノベーション創造プログラム運用指針及び研究開発とSciety5.0との橋渡しプログラム運用指針（それぞれ、ガバニングボード決定）
- 原子力委員会の議事録または音声データの公表件数
- 原子力関連学科・専攻の入学者数

（2）施策に関連する主な内閣府事業（開始年度）

- 戦略的イノベーション創造プログラム（エネルギー分野、次世代インフラ分野及び地域資源分野）（平成26年度） 行政事業レビュー事業番号 0140
- 官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）（平成30年度～令和４年度）研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（令和５年度） 行政事業レビュー事業番号 0142
- 原子力政策の検討及び理解増進/原子力の国際協力及び各省庁連携の推進
  行政事業レビュー事業番号 5503

（3）施策に関連する主な他省庁の事業

特になし